

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
YIC京都ペット総合専門学校	平成25年3月25日	杉山 征人	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4044																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人京都中央学院	平成19年1月22日	井本 浩二	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4040																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
商業実務	商業実務専門課程	動物看護科	平成27年 文部科学省告示第13号	-																											
学科の目的	<p>専門知識・技術を教授するだけでなく、技術教育を通じての人間教育を行うことにより、良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の発展に貢献できる心豊かなペット業界のスペシャリストの養成を目的とする(教育理念)。具体的には、即戦力ではなく、変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、変わらずに人を癒すことのできる資質を備え、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物を教育する。</p> <p>動物看護科においては、動物病院で必要とされる実践的かつ専門的な技術・知識だけでなく、人と動物の共生社会の実現のために正しい知識と高い倫理観を持つ人材を育成する。さらに、職業人としての使命感を持って、利他の精神で働くことに社会的意義を感じられる人間力を育成することにも注力し、将来動物看護業界の指導的立場やリーダーとなる人材の育成を目的とする。</p>																														
認定年月日	平成27年 2月25日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	2,400時間	1,635時間		1,005時間																										
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
80人	44人	0人	3人	13人	16人																										
学期制度	■1学期: 4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率80%以上、ペーパーテスト及び実技 成績:優(100-90) 良(89-70) 可(69-60) 不可(59-0)																											
長期休み	■学年始: 4月 1日～4月10日 ■夏 季: 7月25日～8月31日 ■冬 季:12月23日～1月10日 ■学年末: 3月10日～3月31日		卒業・進級条件	出席率:80%以上 成 績:60点以上(100点満点) 学費の完納																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、本人との面談や場合によっては保護者を含めた面談を行い、状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。		課外活動	■課外活動の種類 学園祭実行委員、京専各体育大会等への参加(バレーボール、卓球等)ボランティア活動(地域清掃、献血、留学生交流)、部活動、同好会活動、オープンキャンパスボランティアスタッフ ■サークル活動: 有																											
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 動物病院 ■就職指導内容 担任とキャリアサポート室スタッフを中心に、就職ガイダンス(自己分析、企業研究、プレゼンテーション)や個人面談、企業訪問、企業説明会を実施し、希望する企業への就職をバックアップする。 ■卒業業者数 15 人 ■就職希望者数 15 人 ■就職者数 15 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 28 年度卒業生に関する平成29年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>統一認定動物看護師</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士1級</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>ペットファーストエイド</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>損害保険募集人資格</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>電話検定</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>14人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	統一認定動物看護師	③	15人	15人	愛玩動物飼養管理士1級	③	16人	16人	ペットファーストエイド	③	16人	16人	損害保険募集人資格	③	16人	16人	電話検定	③	16人	14人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
統一認定動物看護師	③	15人	15人																												
愛玩動物飼養管理士1級	③	16人	16人																												
ペットファーストエイド	③	16人	16人																												
損害保険募集人資格	③	16人	16人																												
電話検定	③	16人	14人																												
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 平成29年4月1日時点において、在学者37名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者37名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 QU(Questionnaire Utilities)により、学生の学校生活での満足度と意欲、クラス集団の状態を把握し、学生の不適応感について、問題行動として現れる前に発見し対策を立てている。出席不足や授業について行けない学生には補講や再試験等を行う。心の問題に対する個々人への対応は、CTIパーソナリティ診断を利用し、担任、キャリアカウンセラー、臨床心理士が協同し、開発的、予防的、治療的カウンセリングが行える体制としている。																														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待奨学金制度(一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜)初年度学費¥よりS:学費20万円免除、A:10万円免除、B:5万円免除 ・経済的支援制度(専願出願者で経済的事由(生活保護受給世帯等)により学費減免を希望する者。最大10名 初年度学費より20万円免除 ・ファミリーサポート制度(YICグループ校の在学生または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者n太子初年度学費より5万円免除) ・ひとり暮らしサポート制度(通学困難者で下宿をせざるを得ない者に対し毎月5千円補助) ・就学支援制度(大学・短大・専門学校卒業&見込生、社会人経験3年以上であり、本校に入学を希望する者に対し、初年度学費より10万円を免除) ・特別就学支援(本校に入学する全ての者に対し、初年度学費を20万円免除) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 評価団体: JAMOTE認証サービス株式会社 受審年月:平成29年1月19日～20日 評価結果:ISO29990に適合 登録日:平成29年2月20日																														
当該学科のホームページURL	URL: http://www.yic-kyoto.ac.jp/pet/																														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

・教育課程編成委員会において、学校の方針・編成に対する企業等による意見・提案をいただき、教育課程の編成をより商業実践的にすべく内容改変あるいは新規導入等の可否を検討する。さらに、企業等による連携授業・教職員の技術研修、学生の実務研修、就職指導等の協力・実施計画等併せて討議する。これらの結果は、基本的には次年度の教育課程編成に適用する。  
・編成委員会の意見・要請は教育課程の編成に十分生かすものの、最終的には学校の教育理念に沿ったものであることを前提に、編成した教育課程は最終的に校長認可の上実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。  
・学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。  
・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年 4月 1日現在

名前	所属	任期	種別
若松 久雄	社団法人 京都府獣医師会 副会長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	①
新谷 嘉成	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロック協議会 会長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
中村 達朗	株式会社 ペット・コム 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
杉山 征人	YIC京都ペット総合専門学校 校長		
細田 元一	YIC京都ペット総合専門学校 副校長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数 2回

(開催日時)

第1回 平成29年5月24日 15:30～17:00

第2回 平成29年11月9日 13:30～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・学生の修得度合いに関して、日々の確認が不十分であると感じる。学生は自分自身の技術を見つめなおす事が時間的にも難しい。学校側が日々の確認を確りと実施しないといけないのではないかと。  
→前提テスト、確認テストが実習でも必要であると感じている。確認項目を統一すれば教員の熟練度に依存しない確認が可能。現状、時間的問題が存在するが解決策を考える。  
・常勤・非常勤の差無く、どの時期に何をしなければならぬのか教員間での密な打ち合わせが不足しているのではないかと。月単位での確認が必要ではないかと。  
→ご意見は課題として確りと考える。  
・学習意欲を高める為にも学生のうちに業界との接点を増やすと良いのでは。自信が勉強する事に対するイメージ付けが出来たのではないかと。  
→働くとは何か、キャリアとは何かという事が課題となる。資格取得後にどの様に働き続けるかをイメージさせる指導が必要と感じている。  
・教員が自身の技術を高めようと努力している学校は自ずと学生の質も向上する。教員自身が自ら取り組む環境をつくる事が重要ではないかと。  
→人材育成は非常に重要であると感じている。各種セミナーや技術研修会等に教員が差が出来る様に情報発信等を実施している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等が求める職業実践的な人材像と学校が送り出す人材像とのギャップを埋め、卒業生の質を保証し本校の教育理念を果たすために企業等との連携は必須である。ギャップは社会の変化、技術進歩に学校が追い付いていないところにあると考える。企業等との連携により、教職員の教育研修に注力するとともに、企業等による連携授業、業界研究（インターンシップ）等積極的に行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

- ・企業等と協定書を締結し、連携授業として動物病理学、動物感染症学等の授業や、校外（動物病院等）での動物臨床検査学実習等を行っている。学習内容、評価などは期初に当該企業等との打ち合わせにより決定したシラバスに沿って行っている。
- ・インターンシップは学校とインターン生受け入れ企業と個別に覚書を結び、学生のレポート⇒企業側のコメント⇒学校のコメント・評価⇒学生へのフィードバックにより学修成果を評価し、その結果を企業に報告することにより、科目の成果、改善・改革を図っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
動物病理学	発病のメカニズムと病理学的特徴を理解する	さわべ動物病院
動物疾病看護学Ⅲ	主に犬猫の病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し看護に活かす。	音羽犬猫病院
病原体・衛生管理	病原体によって引き起こされる感染症をどのように予防するかを考える。その中でワクチンについても理解し、動物を健康に管理する知識を身につける。また、感染症の予防の重要性を飼い主に伝えられるようになる。	一般社団法人 関西動物看護教育研究会
動物健康管理	ウェルネスプログラムを理解し、飼い主に説明指導ができるように学習	一般社団法人 関西動物看護教育研究会
外科動物看護実習Ⅱ	看護動物が安全に麻酔（手術）を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解する。	公益社団法人京都市獣医師会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

・学生・保護者・地域社会（企業）に対して本校の卒業生の質を担保するためには、教職員の教育力の向上が必須である。「学校法人京都中央学院教職員研修規程研修等」に基づき、研修等には①担当分野の実務、②インストラクショナルスキル、③学生指導・就職指導、④学校運営 についての研修を計画的に行う。教育研修は、学校関係者すべてに関わるものであり、自己啓発を含め積極的に支援する。年度研修は研修計画に沿って行い、スポット研修は随時行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

動物看護師のための周術期管理継続学習講座（日本動物看護職協会）、学術講習会（京都府獣医師会）、動物看護師養成コアカリキュラム研修実証講座（動物看護師国家資格化検討推進協議会）、動物看護師教員セミナー（動物臨床医学会）、災害時における被災ペットと飼い主の救護活動について研修会（ペット災害対策推進協会）

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・京都府教育相談研修会：京都府私立中高協会（1日間）
- ・新任指導力（組織コーチング、メンタリング）研修：職業教育キャリア教育財団（3日間）
- ・アドラー心理学の活用による退学者防止・学級経営術：全国専門学校経営研究会（2日間）

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

動物看護師のための周術期管理継続学習講座（日本動物看護職協会）

② 指導力の修得・向上のための研修等

私学カウンセリング研究会（京都府立中高協会）、キャリア・サポーター養成講座（職業教育・キャリア教育財団）、インストラクショナルデザイン研修（全国専門学校経営研究会）、アドラー心理学の活用による退学者防止・学級経営術（全国専門学校経営研究会）、中堅教員コーチング研修（職業教育・キャリア教育財団）、新任教員研修（京都府専修学校各種学校協会）

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2) 学校運営	7 管理運営 9 改革・改善
(3) 教育活動	2 教育の内容
(4) 学修成果	4 教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	5 学生支援
(6) 教育環境	3 教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	5 学生支援
(8) 財務	8 財務
(9) 法令等の遵守	7 管理運営
(10) 社会貢献・地域貢献	6 社会的活動
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・業界全体の給与水準は低く、離職率が高い。女性比率が高い。有効求人倍率はバブル期を超えている。業界として待遇改善が必要。離職した人に戻ってきてもらう体制が必要。会社の中に小さな託児所等、女性が働きやすい環境づくりが必要である。

→職場復帰のハードルを低くするために社会人の学び直しを考えられるが需要とのバランスが課題である。

・学校で教える内容にフリーディングは取り入れないのか。その様な希望を出す企業もある。

→業界がそういう人を要請しているのであれば、学校もそちらに力を入れる必要もある。

・教員育成のスタイルで教員募集をかけている学校もある。YICとしてはどの様なスタイルなのか。

→技術を持ち教育理念を理解したうえで導く事ができる教員を求めている。学校でその様な人財を育てる方針である。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年 4月 1日現在

名前	所属	任期	種別
若松 久雄	社団法人 京都府獣医師会 副会長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	学会
新谷 嘉成	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロック協議会 会長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
中村 達朗	株式会社ペット・コム 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
丸山 帆夏	ダクタリ動物病院	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) ( )

URL: <http://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容(提供する情報の項目例)全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科(コース)等の教育

(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・就学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校の評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程動物看護科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物形態学Ⅰ	主に犬猫を中心にその他ウサギ、鳥類などの動物の体の構造、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。	1前	30	1	○			○		○		
○			動物形態学Ⅱ	主に犬猫を中心にその他ウサギ、鳥類などの動物の体の構造、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。	1前	30	1	○			○		○		
○			動物形態学Ⅲ	主に犬猫を中心にその他ウサギ、鳥類などの動物の体の構造、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。	1前	30	1	○			○		○		
○			動物形態学Ⅳ	主に犬猫を中心にその他ウサギ、鳥類などの動物の体の構造、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。	1後	30	1	○			○		○		
○			動物形態学Ⅴ	主に犬猫を中心にその他ウサギ、鳥類などの動物の体の構造、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。	2後	30	1	○			○		○		
○			動物病理学	発病のメカニズムと病理学的特徴を理解する	2後	30	1	○			○			○	○
○			動物疾病Ⅰ	主に犬猫のバイタルサインと病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し看護に活かす。	2前	30	1	○			○			○	
○			動物疾病Ⅱ	主に犬猫の病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し看護に活かす。	2前	30	1	○			○			○	○
○			動物疾病Ⅲ	主に犬猫の病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し看護に活かす。	2前	30	1	○			○			○	○
○			動物疾病Ⅳ	主に犬猫の病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し看護に活かす。	2後	30	1	○			○			○	○
○			動物疾病Ⅴ	主に犬猫の病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し看護に活かす。	2後	30	1	○			○			○	○

○		動物薬理学	薬の作用機序と有害作用並びに獣医療現場で使用される主な薬剤の特性を理解し、薬剤を正しく取り扱えることを目指す。	2前	30	1	○			○			○	○
○		動物感染症学Ⅰ	主にイヌやネコに感染する微生物(細菌、真菌、原虫、ウイルス)について、性状と構造、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主様に感染症予防の大切さを伝えられるようにする。	1前	30	1	○			○			○	○
○		動物感染症学Ⅱ	主にイヌやネコに感染する内部寄生虫・外部寄生虫の感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主様に感染症予防の大切さを伝えられるようにする。人への感染について学ぶ。	1後	30	1	○			○			○	○
○		病原体・衛生管理	病原体によって引き起こされる感染症をどのように予防するかを考える。その中でワクチンについても理解し、動物を健康に管理する知識を身につける。また、感染症の予防の重要性を飼い主に伝えられるようになる。	1前	30	1	○			○			○	○
○		動物健康管理	ウェルネスプログラムを理解し、飼い主に説明指導ができるように学習	1前	15	1	○			○			○	○
○		動物栄養学Ⅰ	栄養学総論に基づいて、注意すべき食材を知り、必要エネルギー量の指導ができ、イヌとネコに必要な栄養素の違いが説明でき、ライフステージ別の栄養指導ができることを目的として学習する。	1後	30	2	○			○			○	○
○		動物栄養学Ⅱ	獣医師の診断内容と栄養学的内容を理解し、その疾患に関連する解剖学や生理学の知識を修得し、栄養学および食事指導をする。	1後	30	2	○			○			○	○
○		動物栄養学Ⅲ	ペットフード自体についても関心を持ち、適切に指導ができるための知識を持つように学習する。	2前	15	1	○			○			○	○
○		動物医療関連法規	主に獣医療現場及び動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献し専門職として遵守の精神を養う。また、社会人として知っておくべき法規について認識する。	1前	30	1	○			○			○	○
○		公衆衛生学	公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全等に活かせる知識を身につける。	1前	30	1	○			○			○	○
○		動物繁殖学	主に犬猫の繁殖生理を理解し、性行動、妊娠、分娩及び避妊、去勢の知識を身につけ助産と性別疾病予防について飼主指導に活かす。また犬猫以外の動物の繁殖生理の特徴を知る。	2前	15	1	○			○			○	○
○		動物人間関係学	人間と暮らす動物たちはどのようにして人との関係を築いたのかを古代から現代にいたるまでの出来事や当時の考え方を概観しながら動物と人の関係について理解を深める。	1前	30	1	○			○			○	○
○		動物行動学Ⅰ	主に犬猫の発生起源、種類による特徴を知り、基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、看護と飼主指導に活かす。	1前	30	1	○			○			○	○
○		動物行動学Ⅱ	主に犬猫の発生起源、種類による特徴を知り、基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、看護と飼主指導に活かす。	1後	30	1	○			○			○	○

○		動物福祉論	動物看護の実践に必要なとされる動物福祉の認識から動物愛護や動物ネ葛社の発展を学び、動物関連法規やヒトの関わりから動物福祉への精神を養う。	1後	30	1	○			○			○	○
○		動物飼養Ⅰ	実験動物、産業動物、展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点から人と動物の共生に寄与する。また伴侶動物となり得るウサギ、小鳥、ハムスター、モルモット、フェレットについて生理と生態から適正飼育法及び主な疾病について理解し、看護と飼主指導に活かす。	1前	30	1	○			○			○	
○		動物飼養Ⅱ	実験動物、産業動物、展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点から人と動物の共生に寄与する。また伴侶動物となり得るウサギ、小鳥、ハムスター、モルモット、フェレットについて生理と生態から適正飼育法及び主な疾病について理解し、看護と飼主指導に活かす。	2前	30	1	○			○			○	
○		動物看護学	動物看護とは何か、対象は何か、職域は何かを学んだ上で動物看護過程について学習する。	1後	15	1	○			○			○	○
○		臨床動物Ⅰ	チーム獣医療の中で動物看護師がどのような視点で看護を行うべきか症状別の看護のポイントを学ぶ。	2前	30	1	○			○			○	○
○		臨床動物Ⅱ	チーム獣医療の中で動物看護師がどのような視点で看護を行うべきか症状別の看護のポイントを学ぶ。	2後	30	1	○			○			○	○
○		臨床動物Ⅲ	チーム獣医療の中で動物看護師がどのような視点で看護を行うべきか症状別の看護のポイントを学ぶ。	2後	30	1	○			○			○	○
○		動物入院管理	入院している看護動物の病状について理解と動物の情報を把握し、入院生活が極カストレスにならないように管理する基本的なケアを学ぶ。また、ペットホテルなど健康な動物を預かる際の注意点についても学び、適切なケアができるように学習する。	2後	30	1	○			○			○	
○		幼齢動物・老齢動物管理	主に犬猫の新生子期から幼年期の管理について理解し予防と看護に活かす。また老齢動物の管理、介護を理解し飼主に寄り添った在宅看護に活かす。	2後	30	1	○			○			○	○
○		動物臨床検査学	検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす	1後	30	1	○			○			○	○
○		救急救命対応	《外部授業》エマージェンシーの見極めとトリアージを理解し救急救命に活かす。	1前	15	1	○			○			○	○
○		クライアントエデュケーション	看護動物の福祉は飼い主に大きく依存され、正しい知識と理解がないと、治療や処置を必要としている看護動物に適切な処置がなされず、治療されないまま、又は適切な処置がされないまま放置されることを理解し、飼い主のコンプライアンスを高める。	2前	30	1	○			○			○	
○		院内コミュニケーションⅠ	動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付業務、院内コミュニケーション、電話対応を身につける。動物診療現場における受付で発生する飼主対応、接遇を身につける。	1後	30	1	○			○			○	○
○		院内コミュニケーションⅡ	動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付業務、院内コミュニケーション、電話対応を身につける。スタッフコミュニケーション	2前	30	1	○			○			○	



○		院内コミュニケーションⅢ	動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付業務、院内コミュニケーション、電話対応を身につける。スタッフコミュニケーション	2 後	15	1	○							○		○	
○		動物飼育実習Ⅰ	実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。さらに手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。	1 前	45	1					○	○			○		
○		動物飼育実習Ⅱ-①	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。	1 後	30	1					○	○			○		
○		動物飼育実習Ⅱ-②	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。	2 通	60	2					○	○			○		
○		動物看護実習Ⅰ-①	基礎で習得した知識の実践とし、診療現場に必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身につける。また、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。	1 前	45	1					○	○			○	○	
○		動物看護実習Ⅰ-②	基礎で習得した知識の実践とし、診療現場に必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身につける。また、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。	1 後	45	1					○	○					
○		動物看護実習Ⅱ	グルーミングが与える動物への効果を学び、様々なイヌ種・ネコ種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに、皮膚・被毛を中心とした健康状態の把握について理解を深める	1 後	45	1					○	○					
○		動物看護実習Ⅲ	「動物看護実習Ⅱ」での実践能力に応用力を用いて、正確性や迅速性を身につける。	2 通	90	2					○	○					
○		動物臨床検査学実習Ⅰ	検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす	1 後	90	2					○	○				○	○
○		動物臨床検査学実習Ⅱ	基礎で習得した知識の実践とし、診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身につける。また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。	2 前	45	1					○	○				○	○
○		動物臨床検査学実習Ⅲ	検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす	2 通	90	2					○	○				○	○
○		外科動物看護実習Ⅰ	周期の術前・術中・術後において、動物看護師の役割である外科手術を補助するために必要な外科看護技術を修得する。看護動物が安全に麻酔(手術)を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解する	1 後	45	1					○	○			○		
○		外科動物看護実習Ⅱ	看護動物が安全に麻酔(手術)を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解する。	2 通	45	1					○	○			○	○	
○		総合臨床実習	修得した知識と技術が実際の動物医療現場でどのように活かされているのか動物病院で体験・実習する チーム獣医療の現場から診療の流れ、専門職としての役割を体験し、臨床現場ならではの臨場感を体験する。 いままで修学した知識と技術、コミュニケーション能力を発揮し、先輩動物看護師に見習うことで、新人スタッフとしての心構えと社会人としての責任	2 通	135	3					○	○			○	○	

	○	キャリアデザインⅠ	就職活動に実践で活用できる内容を覚える。	1後	60	2	○			○	○		
	○	キャリアデザインⅡ	就職活動に実践で活用できる内容を覚える。	2前	30	1	○			○	○		
	○	ボランティア活動	ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を講義する。ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を学習した後に、学生の主体的な計画の下にボランティア活動を体験する。	2通	30	1			○	○	○		
○		損害保険学	損害保険募集人一般試験 基礎単位を取得する為に必要な知識を修得する。	1前	15	1				○			
	○	基本IT技術Ⅰ	コンピュータを利用した事務作業やビジネスに必要な文書の作成や表計算について学習。必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習する。	2前	30	1	○			○	○		
	○	基本IT技術Ⅱ	パワーポイントを使用したスライド作成	2後	30	1	○			○	○		
	○	イベントプロデュース	学園祭の出し物(模擬店等)をクラス一丸となって考えていくことにより、チームで動いているという認識や、自ら進んで動ける主体性、新しいものを生み出そうとする創造力を養う。	1後	30	1	○				○	○	
	○	社会常識	ビジネス電話検定合格のために必要な知識、及び、実践の場で役立つ対応力を身につける	1通	60	2	○			○			○
	○	日本文化	季節の花を生け、生きてる花の表情を捉え、花の命の奥深さを学ぶ。伝統芸術に触れ感性を磨き、自己を知る。	1前	30	1	○			○			○
	○	ビジネス力 文 章 力	講義形式・グループワーク・調べ学習・発表を授業で取り入れる ・必要に応じて視聴覚教材使用 ・美しい字を書く事を授業内で実施 ・適宜課題提出	2前	30	1	○			○			○
	○	論理的思考力	日常生活に関する題材を取り上げ、確かな読解力・適切な翻訳の仕方、正確な遂行力を養い論理的思考の面白さ、痛快さを実感する。	2後	30	1	○			○			○
	○	物理・化学	院内における動物の入院管理や調剤業務に必要な位置感覚や、薬理的知識の基礎を学ぶ。	2前	30	1	○			○		○	
	○	ビジネス英語	本講義では、おもに受付での対応についていろいろな場面での会話を学んでいく。 授業は簡単な会話を中心とし、動物分野に必要な表現、用語を併せて学ぶ。	2後	30	1	○			○			○
	○	時事問題	日々の重要ニュースをテーマに、その背景に含まれている問題点、社会的な意味、今後の見通しなどを考える。メディアを通して伝えられる「ニュース」を自らがどう受け止めるべきか、そのために必要な基礎知識と視点とは何か、を理解できるよう努める。またニュース時事能力検定を活用し授業を進める。	2前	30	1	○			○		○	

○		校外学習Ⅰ	ドッグショーや動物愛護イベント・学園祭などの総合学習や、その他スポット的なセミナー等、普段学内では体験できない事を、外部の施設・イベントに参加し、教養を深める。	1通	15	1				○	○	○		
○		校外学習Ⅱ	山口大学での連携授業、動物愛護イベント・学園祭などの総合学習やその他スポット的なセミナー等、普段学内では体験できない事を、外部の施設・イベントに参加し、教養を深める。	2通	60	2				○	○	○		
	○	愛玩動物飼養管理学	愛玩動物飼養管理士2級の合格を目指した内容	1前	30	1	○			○	○			
	○	愛玩動物飼養管理応用	愛玩動物飼養管理士1級の合格を目指した内容	2前	30	1	○			○	○			
	○	動物看護師学総合	今まで学んできた内容をもとに、動物看護師統一認定試験の過去問題を解き、本試験に向けて弱点の克服や対策を練る。	2後	60	2	○			○	○			
	○	アニマルヘルパー講座	一般社団法人日本ペットサービス研究会の定める「アニマルヘルパー」として必要な知識・技術を修得する。	2通	60	2	○			○		○		
合計				73科目	2,640単位時間(86単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目60単位(1,920時間)および選択16単位(480時間)以上及び選択科目を合わせて計76単位(2,400時間)以上の履修		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週
(留意事項)			
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。			
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。			